

いわゆる「サイレント・マジョリティ」をどう捉えたらよいかについて(素案)

1. これまで開催した市民参加懇談会コアメンバー会議でのご意見

- ・ 自分が何度も原子力関係のアンケートをとった時の印象では、極端な反対派と極端な推進派というのは、どちらも10%ぐらいで、その間の80%は中間層だと考える。私たちが大事にしなければいけないのはその80%だと思う。平均的な人たちの意見を吸い上げられる調査のようなことも、やはり並行してやっていった方がいいのではないか。懇談会というのは、制約があって当たり前である。(第4回コアメンバー会議(碧海委員))
- ・ 「今後のあり方」の手法として、割合大規模に、国民の意見の分布をみるアンケートもあるのではないか。(第9回コアメンバー会議(吉岡委員))

2. これまで開催した市民参加懇談会でのご意見

- ・ 原子力は右足と左足の非常に対極的な議論ばかりが際立っていて、中間的な立場の方たちの声が大きく反映されてこない。(市民参加懇談会 in 青森)
- ・ 議論すべき大多数の国民は、難しい言葉をほとんど受け付けない一般市民だということを認識すべき。評論家や賛成派、反対派だけの議論に終始していると思う。(第7回市民参加懇談会意見募集)
- ・ 推進または反対という意見ではなく、広く民意を反映させる意見というものがどうやったら集められるのかを考えることも必要ではないかと思う。立地点や消費地でない、いろいろな地域のところからも意見を集約できるようなことをぜひやってほしい。(第7回市民参加懇談会)

3. 議論の進め方

- ・ いわゆる「サイレント・マジョリティ」をどう捉えたらよいかについて、2回程度コアメンバー会議でご議論いただく